

高校教師の心得



第①回 高校教師の仕事とは



監修
服部 次郎

(はっとり・じろう) 東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭、同校長、筑波大学教授などを経て、2006年4月より現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

連載に当たって

私は、今は大学で教職科目を教えています。前職は高校教師でした。公民科の教諭として29年間教壇に立ち、副校長6年、校長4年と管理職も10年務めました。その後大学に職を得て、実に教師生活43年目を迎えています。

この連載では、教師を目指す皆さんに向けて、私が43年の教師生活で得た実感をもとに、高校教師の仕事内容と心構えについて書いていこうと思います。

第1回目はまず、高校教師の仕事全体を通して、教師を目指す人に求められる資質について考えてみましょう。

高校教師の「教える」こととは…

- 授業で、自分の専門の教科・科目を教える。
- 生徒指導で、人間の正しい在り方としての道徳を教える。
- ホームルームで、学級生活の在り方を教える。
- 生徒会活動で、集団生活の在り方を教える。
- 部活動で、特技を生かして教える。

教師は人とかかわる仕事

教師の仕事は、人間とかかわることです。まずは生徒たちとかかわる、そして同僚の先生たちと、校長や先輩教師たちと、保護者の人たちと、地域の人たちとかかわる、とにかく教師は人間とかかわるのが仕事です。「人嫌い」では、教師は務まりません。

他人とかかわることは大変なことです。生徒たちはかわいいばかりではなく、いじめや不登校などドロドロの生徒指導問題も増えています。保護者だっていい人たちばかりでなく、「モンスターペアレンツ」などという言葉もはやるような時代です。それに最近では、教師社会でのいじめも問題になっています。

それでも、教師は他人とかかわらなければ仕事になりません。どんな生徒も本当はいいやつなんだと信じてかかわらなければ教師の仕事はできません。人間のマイナス面も含めて、とにかく人間とかかわることが好きでなければ、教師の仕事はできないということです。

教職は、いわゆるコミュニケーション能力が最も問われる職業なのです。

「教える」こと、「仕切る」こと

教師とは、「教える師（先生）」です。「教える」ことには、左下の表に示したような内容があります。教師は、とにかく教えることが好きでなければなりません。

教師が教えることの中心は、教科・科目の授業です。教師が学校で過ごす時間の大半は授業をしています。授業で生徒に教えることが好きでなければ、教師は務まりません。

生徒に一番尊敬されない教師は、「授業の手を抜く教師」「授業の嫌いな教師」「授業をサボる教師」です。どんなに勉強の嫌いな生徒でも、「授業に熱心でない教師」はちゃんと見抜いてバカにするものです。

教育実習に行ったら、学活や部活で生徒に「先生！」と慕われていい気になってはいけません。自分が「授業することが楽しい」と思えるかどうかを見極めなければなりません。

授業が楽しくなかったら、厳しいようですが、教職を目指すのはやめた方がいいと思います。

教えるということは、その場を仕切ることです。このごろの若者の友達付き合いでは、「仕切り屋」は「でしゃばり」として嫌われるらしいですが、教師は学校の中でいつでもどこでも生徒を仕切れなくてはなりません。「控えめで、目立たない」は教師の美德にはなりません。私は、このごろの若い教師たちに「仕切れない」人が多いのが気になっています。

教師生活は一生勉強

天才とか秀才などと言われる人を除いては、誰でも勉強は好きではありません。天才や秀才はあまり教師にはなりません。一般的に言って教師の中にも本音では勉強が好きではない人もいます。それでも教師は勉強しなければなりません。

人に物を教えるということは、大変なことです。それを仕事にする以上、嫌でも勉強しなければなりません。たとえ勉強が嫌いでも、教師である限り一生勉強し続けなければなりません。

勉強が好きなことは、教師の絶対条件です。

真面目でなければ務まらない

どんな教師も、「道徳を教える人」です。高校には「道徳の時間」がないだけで、高校でも道徳教育をしっかりと行わなければならないことは、学習指導要領に明記してある通りです。

それに、学習指導要領にかかわらずとも、教師は道徳的であらざるを得ません。道徳とは、「人間としての正しい在り方」です。教師が毎日遅刻していたら、生徒の遅刻を叱ることはで

きません。教師が生徒を差別したり、えこひいきしているようだと、「公正で公平な差別のない社会を作りましょう」という話はできません。

教師は、いつも生徒たちに見られています。しかも、高校生は批判的精神が強くなっていく年ごろですから、教師はいつも生徒たちの批判の目にさらされていることになります。教師の不真面目な行動、不謹慎な行為は、たちまちスキャンダル化します。教師への不信の目は、学校そのものへの不信にさえつながります。

すぐに結果が出ないことを覚悟して

教育の結果は、すぐには出ません。どんなにいい授業をしたからといって、すぐに生徒が目に見えて賢くなるわけではありません。どんなに苦勞して生徒のためになることをしても、すぐに生徒に感謝されるとは限りません。苦勞して学校改革に取り組んだとしても、すぐに目に見えて学校が変わるわけではありません。

だから、教師の仕事はほとんどが、そのときには良かったのか悪かったのかが分からない仕事です。すぐに結果が出なくても、自分の思う道を粛々と歩むという覚悟が必要です。

けれども、まったくむなしわけではありません。何十年も経って、すっかり大人になった卒業生たちのクラス会に呼ばれ、「先生がああときこう言ってくれたから、俺はぐれずに頑張れたんだぜ!」とか、「先生の授業は、ノート取るのが大変だったけど、面白くて俺は好きだったぜ!」などと、思ってもみなかったことを卒業生の口から聞くと、「教師やってて良かったなあ。教師冥利に尽きるぜ!」という喜びをきくと味わうことができますよ。

Point!

高校教師の仕事とそれに必要な資質とは、次の5つ。

- ①生徒、校内、外部とのかかわり——人間が好きなこと
- ②学習指導、学級経営など——教えることが好きなこと
- ③授業研究、研修——勉強が好きなこと
- ④道徳指導、生徒指導——真面目であること
- ⑤教師としての仕事全般——すぐに結果を求めないこと

★次回は授業・教材研究を取り上げます。